



平成 21 年 10 月 28 日

各 位

会社名 **アンリツ株式会社**  
 代表者名 代表取締役社長 戸田 博道  
 (コード番号 6754 東証)  
 問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長  
 川辺 哲雄  
 (TEL 046 - 296 - 6507)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

平成21年4月27日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

#### 記

・平成22年3月期第2四半期連結累計期間 業績予想数値との差異(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月27日発表)	35,000	300	900	1,000	7.85
今回発表実績(B)	33,764	912	141	126	0.99
増減額(B-A)	1,235	1,212	1,041	873	-
増減率(%)	3.5	-	-	-	-
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	44,426	544	176	1,565	12.28

・平成22年3月期連結通期 業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成21年4月27日発表)	76,000	2,200	1,000	500	3.92
今回修正予想(B)	73,000	3,000	1,500	500	3.92
増減額(B-A)	3,000	800	500	-	-
増減率(%)	3.9	36.4	50.0	-	-
(ご参考)前期実績(平成21年3月期)	83,940	905	170	3,540	27.78

#### ・修正の理由

##### 【第2四半期連結累計期間】

売上高は、主力の計測器事業において日本を中心に当初の見込みを若干下回りましたが、利益面では、緊急経営施策の実施による固定費削減に加えて、グループを挙げて取り組んだ営業費用の削減効果が想定以上に進捗したことから、前回発表予想を上回りました。

##### 【通期】

主力の計測器事業においては、先端分野のLTE関連市場が立ち上がりつつあるなど明るい兆しもみられるものの、情報通信市場全体の設備投資動向は日本などを中心に抑制傾向が続くことが想定されます。加えて世界景気の下振れ懸念や急激な為替変動などのリスク要因もあり、経営環境は先行き不透明感が強く厳しい局面が続くものと思われます。このような状況のもと、第2四半期末までの実績も踏まえ、業績見通しを修正するものです。

これにより、売上高は730億円に下方修正する一方、営業利益は30億円、経常利益は15億円にそれぞれ上方修正します。なお、当期純利益につきましては税金費用の増加を見込むことから変更はありません。

(参考)

事業別売上高の予想(平成22年3月期連結通期)

(単位:百万円、%)

	前回発表予想(A) (平成21年4月27日発表)	今回修正予想(B)	増減額(B - A)	増減率(%)	前期実績
売上高	76,000	73,000	3,000	3.9	83,940
計測器	51,000	48,500	2,500	4.9	57,449
情報通信	5,000	5,000	-	-	5,200
産業機械	12,000	12,000	-	-	12,980
サービス他	8,000	7,500	500	6.3	8,309

(参考) 想定為替レート: 1米ドル = 90円

(注意事項)

本発表資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定や判断に基づくものであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

実際の業績に影響を与える重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場のなかでアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。ただし、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。